

1979年度の感染症病原微生物定点観測成績について

森田盛大*	佐藤宏康*	庄司キク*
高山和子*	山脇徳美*	後藤良一*
原田誠三郎*	斉藤志保子*	佐々木光穂*
高橋久美子*	鈴木正則*	岡村敏弘**
長沼雄峯***	鈴木敞謙****	熊谷富士雄*****

I 緒 言

本県の感染症サーベランス体制も4年目を迎えたが、全国各地でもこのような体制が逐次整備されつつある。厚生省によれば¹⁾、54年度末の時点で37都道府県で何んらかの形式で実施しているし、また、55年度からは東北6県のすべてが実施する運びとなっている。感染症に対する考え方の変遷を示すものであろう。

さて、本報では、1979年度、由利、秋田、山本の3組合総合病院小児科を拠点として行なった病原微生物定点観測成績について報告する。なお、来年度は開始後5年目にあたることから、サーベランス体制のもう一本の柱である感染症患者発生情報の解析もふまえて、5ヶ年間の総まとめを詳報する考えであるので、本報は概略にとどめたい。

II 材料と方法

表1に示す38疾患（その他は18疾患）、447名の患者から1,100検体（表4）の微生物分離材料と383検体の被検血清（急性期275検体と回復期108検体）を採取し、既報の検査方法²⁾で細菌学的、ウイルス学的及び血清学的病原微生物診断を行なった。

III 成 績

A. 被検患者の疾患別、月別および年令別分布

まず被検対象患者を疾患別にみると、表1の如く、下痢症が47名（10.5%）と最も多く、次いで、百日咳、扁桃炎、インフルエンザとつづいたが、上気道炎～アンギーナまでのいわゆる上気道感染症が全体の24.4%（109名）、インフルエンザ～百日咳までの下気道感染症が21.9%（98名）と呼吸器系感染症が46.3%（207名）を占めた。また、麻疹～猩紅熱までの発疹性感染症は26.8%（120名）で、呼吸器系と合わせると、全体の73.2%に達

した。これらの疾患を病院別にみると、患者の選定が病院によってかなり変動のあることがわかった。月別には、インフルエンザ流行期の3～4月と乳児の嘔吐下痢症（非細菌性急性胃腸炎）の多い11月が多く、また、季節的にまとめると、春と秋に患者が多かった。

年令別には、表2に示す如く、3才迄の乳幼児が全体の50.1%を占めた。

B. 病原微生物の診断成績

病原診断のベースとなった微生物分離成績は、表3の如く、細菌分離陽性率が16.3%、ウイルス分離陽性率が31.9%であり、細菌分離率の明らかな低下がみられたが、これは細菌検査用の咽頭ぬぐい液をpike培地とheart infusion broth培地の両者で採取し、被検菌の検査領域を拡大しようとしたためである。またこれらの分離を病院別に細分すると、山本組合総合病院が最も高率であったが、後述するように、最終的な病原診断率としては秋田組合総合病院が最高であった。これは、秋田の場合、ペア血清の入手率が35.5%（血清採取患者228名中81名）と高率であり、従って、血清学的病原診断率が42.7%と向上したからである。ペア血清の入手率が病原診断に大きく影響した証拠²⁾であろう。

このような微生物分離検査と血清学的検査の両者で行なった総合病原診断率は57.3%（表4）と前年の44.2%³⁾を大巾に上廻わったが、その内容を疾患別にみると、表4.、5.、6.の如くであった。患者数の多い疾患の診断率をみると、流行性耳下腺炎88.2%、口内炎85.7%、百日咳72.7%などが高率であったが、これは臨床診断と検査が的確であったためと考えられる。しかし、百日咳の場合は、別報⁴⁾の如く、当所独自の血清学的病原診断基準を作成し、採用した結果と考えられる。これらに対して、水痘や麻疹の如く、1疾患1病原で、ペア血清の入手さえできれば容易に診断のつく疾患であっても、入手率が悪いと、ウイルス分離率に依存しなければならず、これが診断率の低下を導いた疾患も少なくなかった。一方、

* 秋田県衛生科学研究所

** 由利組合総合病院小児科

*** 秋田組合総合病院小児科

**** 山本組合総合病院小児科

***** 秋田県環境保健部

表1. 被検疾患の月別推移

疾患別	年												合計(%)
	1979										1980		
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
上気道炎	3	1	3	3	2	1	1		3	1	3	5	26 (5.8)
咽頭炎	4	6	5	1	2	1	1	3	1			10	34 (7.6)
扁桃炎	6	6	3	3	1	2	3	3	2	2	5	2	38 (8.5)
ヘルパンギーナ				5	2	1							8 (1.8)
アングーナ		2							1				3 (0.7)
インフルエンザ	8	2									2	26	38 (8.5)
気管支炎		1					1		2	2	3	3	12 (2.7)
肺炎			1					3					4 (0.9)
百日咳	7	4	2	1	1	1	9	7	5	3	3	1	44 (9.8)
口内炎	1		1	2	2	3		3	1	2	3	3	21 (4.7)
下痢症	2		3		8	5	1	13	2	3	6	4	47 (10.5)
大腸炎							1		1	1			3 (0.7)
流行性耳下腺炎					4	1	4	4	1	1	2		17 (3.8)
麻疹	5	9	7	1	2					6			30 (6.7)
水痘	1	1	1	2	1			1		4	1	3	15 (3.4)
手足口病		1		2	2	1	10	5	2		3		26 (5.8)
発疹症	2	2	1	3			3	3	3		1		18 (4.0)
伝染性紅斑	1	1			1								3 (0.7)
猩紅熱または溶連菌感染症	4	3	3	1	1	2	2	4	2	1	2	3	28 (6.3)
腎炎			1					1					2 (0.5)
その他	6	4	3	2	2		4	5	1	1	2		30 (6.7)
合計 (%)	50 (11.9)	44 (9.8)	33 (7.4)	26 (5.8)	31 (6.9)	18 (4.0)	40 (8.9)	55 (12.3)	27 (6.0)	27 (6.0)	36 (8.1)	60 (13.4)	447 (100.0)
	(34.5) *		(20.1)			(25.3)			(20.1)				

* 1980年3月分との合算

上気道炎、咽頭炎、扁桃炎などの如く、多岐多彩な病原によって引き起される疾患ではその病原診断にかなりの労を要したが、種々の検査システムの改良が効を奏し、概ね50%台の診断率を得ることができた。

次に、診断できた病原微生物についてみると、表7の如く、インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノの呼吸器系ウイルスが72件(28.1%)と最も多く、アデノを除くと、季節的消長がかなり明確であった。

また、1980年前半のインフルエンザで⁵⁾、A(H₁N₁)→A(H₃N₂)→B型と、流行ウイルス型のめまぐるしい交替があったのも特徴であった。コクサッキーウイルスなどの腸内ウイルスは43件(16.8%)で、やはり、夏期に多発した。特に、晩夏から冬にかけて、手足口病か

ら多数のCox. A-16ウイルスが検出され⁶⁾、55年の多発流行を予測することができ、流行予測手法の足がかりとすることができた。一方、神経系のムンプスウイルスは、これまでの教科書的発生状況とは若干異なり、夏から初冬にかけて多く検出された。細菌関係では、A群溶連菌(S. pyogenes)が15件(5.9%)と例年になく少なかったが、ほぼ夏期を除いて検出され、主流菌型はT-4型⁷⁾であった。ただ、本年からA群以外の溶連菌の検査にも着手したことから、群別不明の溶連菌⁷⁾(表では連鎖球菌)が6.6%(17件)も検出され、今後これらの溶連菌の検出意義について調査していく必要があると考えられた。また、今回も、サルモネラ菌が、9月、2名の下痢症患者から検出されたが、県内におけるサルモネラ

表2. 被検疾患と年齢・性

疾患名	年 齢 (歳)												合計(%)	♂	♀
	0~6 (m)	7~12 (m)	1 (y)	2	3	4	5	6	7~9	10~12	13~15	≧16			
上気道炎	1	1	4	3	2	2	3	5	4		1		26 (5.8)	10	16
咽頭炎	3	5		2		4	2	6	5	6	1		34 (7.6)	20	14
扁桃炎		2	5	5	10	4	4	4	2	2			38 (8.5)	18	20
ヘルパンギーナ		1	4	2		1							8 (1.8)	3	5
アングーナ						1	2						3 (0.7)	1	2
インフルエンザ	1			3	3	4	7	4	5	8	3		38 (8.5)	21	17
気管支炎		1			3	2	1	1	4				12 (2.7)	6	6
肺炎		1				1			2				4 (0.9)	2	2
百日咳	11	3	15	4	3	5		1	2				44 (9.8)	20	24
口内炎	1	2	9	3	1	1			1	1	1	1	21 (4.7)	8	13
下痢症	2		6	3	4	3	4	4	8	7	6		47 (10.5)	24	23
大腸炎			1					1	1				3 (0.7)	2	1
流行性耳下腺炎		1	1	1	2	5	6	1					17 (3.8)	8	9
麻疹		6	11	6	3	1			1	2			30 (6.7)	15	15
水痘	2	1	2		1	1	1	2	3	1	1		15 (3.4)	7	8
手足口病		3	7	7	4	1	2				2		26 (5.8)	19	7
発疹症	3	9	1		1			1		1	1	1	18 (4.0)	9	9
伝染性紅斑			1	1			1						3 (0.7)	1	2
猩紅熱または溶連菌感染症				3	6	4	7	6	2				28 (6.3)	17	11
腎炎			1		1								2 (0.5)	1	1
その他	1	2	1	4	1	1	5	2	6	1		6	30 (6.7)	14	16
合計 (%)	25 (5.6)	38 (8.5)	69 (15.4)	47 (10.5)	45 (10.1)	41 (9.2)	45 (10.1)	38 (8.5)	46 (10.3)	29 (6.5)	16 (3.6)	8 (1.8)	447 (100.0)	226 (50.6)	221 (49.4)
			(29.5)		(20.6)			(27.7)			(16.8)				

表3. 病院別微生物分離検査成績

検体別	検査成績 分離検査別	病院別			由利組合総合病院			秋田組合総合病院			山本組合総合病院			合計		
		被検数	分陽性 離数	分陽性 離率 (%)	被検数	分陽性 離数	分陽性 離率 (%)	被検数	分陽性 離数	分陽性 離率 (%)	被検数	分陽性 離数	分陽性 離率 (%)	被検数	分陽性 離数	分陽性 離率 (%)
咽頭液	細菌	130	23	17.7	317	39	12.3	167	40	24.0	614	102	16.6			
	ウイルス	69	17	24.6	195	62	31.8	98	40	40.8	362	119	32.9			
糞便	細菌	0	0	0	24	4	16.7	1	0	0	25	4	16.0			
	ウイルス	0	0	0	49	12	24.5	2	0	0	51	12	23.5			
その他	細菌	1	0	0	15	0	0	3	1	33.3	19	1	5.3			
	ウイルス	1	0	0	16	6	37.5	12	4	33.3	29	10	34.5			
合計	細菌	131	23	17.6	356	43	12.1	171	41	24.0	658	107	16.3			
	ウイルス	70	17	24.3	260	80	30.8	112	44	39.3	442	141	31.9			
		201	40	19.9	616	123	20.0	283	85	30.0	1100	248	22.5			

表4. 病院別，疾患別被検患者数と検査状況

病院別	疾患別		上気道炎	咽頭炎	扁桃炎	ヘルパンギーナ	アングィーナ	インフルエンザ	気管支炎	肺炎	百日咳	口内炎	下痢症	大腸炎	流行性耳下腺炎	麻疹	水痘	手足口病	発疹症	伝染性紅斑	溶連菌感染症又は猩紅熱	腎炎	その他	合計
	検査状況	被検患者数																						
由利組合総合病院	被検患者数		13	0	1	2	0	5	8	1	22	1	1	0	1	10	3	2	10	2	7	0	9	98
	微生物分離検査	検体数	36	0	3	6	0	15	21	3	6	3	3	0	3	16	5	9	27	6	21	0	18	201
		分離陽性率	30.6	0	0	16.7	0	20.0	14.3	0	66.7	100.0	33.3	0	33.3	0	0	0	22.2	0	19.0	0	16.7	19.9
	血清学的検査	検体数	13	0	1	2	0	5	8	1	28	1	1	0	1	12	3	2	10	2	7	0	8	105
		血清診断率	23.1	0	0	50.0	0	0	37.5	100.0	75.0	0	0	0	0	16.7	33.3	0	10.0	0	0	0	25.0	33.3
病原診断率		69.2	0	0	100.0	0	40.0	62.5	100.0	72.7	100.0	100.0	0	100	20.0	33.3	0	50.0	0	71.4	0	22.2	55.1	
秋田組合総合病院	被検患者数		0	34	11	6	3	19	0	3	17	10	45	3	15	16	8	13	3	1	11	2	5	225
	微生物分離検査	検体数	0	97	31	16	9	30	0	9	49	29	162	12	31	44	16	32	7	0	25	8	9	616
		分離陽性率	0	19.6	25.8	25.0	22.2	30.0	0	0	4.1	37.9	10.0	8.3	38.7	9.1	12.5	43.8	14.3	0	56.0	12.5	33.3	20.0
	血清学的検査	検体数	0	32	11	3	3	15	0	3	28	9	50	2	6	24	3	12	3	1	18	3	6	232
		血清診断率	0	40.6	18.2	0	66.7	60.0	0	66.7	71.4	11.1	38.0	0	50.0	83.3	66.7	33.3	33.3	100.0	0	0	0	42.7
病原診断率		0	58.8	63.6	66.7	100.0	52.6	0	66.7	64.7	80.0	53.3	33.3	93.3	68.8	12.5	61.5	33.3	100.0	18.2	100	40.0	58.7	
山本組合総合病院	被検患者数		13	0	26	0	0	14	4	0	5	10	1	0	1	4	4	11	5	0	10	0	16	124
	微生物分離検査	検体数	37	0	64	0	0	34	13	0	0	34	1	0	3	6	8	25	3	0	23	0	32	283
		分離陽性率	13.5	0	28.9	0	0	44.1	23.1	0	0	38.2	100.0	0	0	0	12.5	44.0	0	0	39.1	0	28.1	30.0
	血清学的検査	検体数	1	0	8	0	0	3	3	0	7	2	0	0	1	0	3	1	2	0	6	0	9	46
		血清診断率	0	0	12.5	0	0	0	33.3	0	100.0	0	0	0	0	0	66.7	0	50.0	0	0	0	55.6	40.0
病原診断率		30.8	0	46.2	0	0	92.9	75.0	0	100.0	70.0	100.0	0	0	0	25.0	81.8	70.0	0	80.0	0	37.5	56.5	
合計	被検患者数		26	34	38	8	3	38	12	4	44	21	47	3	17	30	15	26	18	3	28	2	30	447
	微生物分離検査	検体数	73	97	98	22	9	79	34	12	55	66	166	12	37	66	39	66	37	6	69	8	59	1100
		分離陽性率	21.9	19.6	23.5	22.7	22.2	34.2	17.6	0	10.9	40.9	10.8	8.3	35.1	6.1	10.3	37.9	18.9	0	39.1	12.5	25.4	22.5
	血清学的検査	検体数	14	32	20	5	3	23	11	4	63	12	51	2	8	36	9	15	15	3	31	3	23	383
		血清診断率	21.4	40.6	15.0	20.0	66.7	39.1	36.4	75.0	76.2	8.3	37.3	0	37.5	61.1	66.7	26.7	20.0	33.3	0	0	30.4	39.4
病原診断率		50.0	58.8	50.0	75.0	100.0	65.8	66.7	75.0	72.7	85.7	55.3	33.3	88.2	43.3	20.0	65.4	38.9	33.3	53.6	100	40.0	57.3	

* 病原診断率% = (病原確定・推定患者数) ÷ 被検患者数 × 100 ** 血清診断率% = (病原確定・推定患者血清数) ÷ 検体数 × 100

表 5. 疾患と病原微生物の確定又は推定 (1)

疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)	疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)	疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)	
上気道炎 26名	Adeno	3	1	4 (15.4)	咽頭炎	群別不明連鎖球菌		2	2 (5.9)	インフルエンザ名 38名	計		3	3 (100.0)	
	未同定腸内ウイルス	2		2 (7.7)		計	13	7	20 (58.8)		Infl. A(H ₁ N ₁)	12		12 (31.6)	
	Cox. A群	1		1 (3.8)	扁桃炎 38名	Infl. A(H ₁ N ₁)	2		2 (5.3)		Infl. A(H ₃ N ₂)	11		11 (28.9)	
	Cox. A-10	1		1 (3.8)		Cox. B-1	2		2 (5.3)		S. pyogenes T-B3264		1	1 (2.6)	
	Infl. A(H ₃ N ₂)	1		1 (3.8)		Adeno	2	2	4 (10.5)		C群連鎖球菌		1	1 (2.6)	
	Parainfl. -3		1	1 (3.8)		Cox. A群	1		1 (2.6)		計	23	2	25 (65.8)	
	S. pyogenes T-12	1		1 (3.8)		Cox. A-10	1		1 (2.6)		気管支炎 12名	Infl. A(H ₁ N ₁)	1		1 (8.3)
	C群連鎖球菌		1	1 (3.8)		Cox. B-5	1		1 (2.6)			Infl. A(H ₃ N ₂)	1		1 (8.3)
	群別不明連鎖球菌		1	1 (3.8)		Parainfl. -3	1		1 (2.6)			S. pyogenes T-B3264	1		1 (8.3)
	計	9	4	13 (50.0)		H. simplex	1		1 (2.6)			Adeno		3	3 (25.3)
咽頭炎 34名	Infl. A(H ₁ N ₁)	5		5 (14.7)	S. pyogenes T-12	1		1 (2.6)	M. pneumoniae			1	1 (8.3)		
	Infl. A(H ₃ N ₂)	2		2 (5.9)	群別不明連鎖球菌		5	5 (13.2)	S. aureus			1	1 (8.3)		
	Cox. A-10	2		2 (5.9)	計	12	7	19 (50.0)	計	3	5	8 (66.7)			
	Cox. A群	1		1 (2.9)	ヘルパンギン8名	Cox. A群	3		3 (37.5)	肺炎 4名	Parainfl. -2		1	1 (25.0)	
	Parainfl. -1	1		1 (2.9)		Cox. A-10	2		2 (23.4)		Parainfl. -3		1	1 (25.0)	
	" -2		2	2 (5.9)		Adeno		1	1 (12.5)		M. pneumoniae		1	1 (25.0)	
	" -3		1	1 (2.9)		計	5	1	6 (75.0)		計		3	3 (75.0)	
	34名	Adeno		2	2 (5.9)	アングリナ3名	Infl. A(H ₁ N ₁)		1	1 (33.3)					
		未同定腸内ウイルス	1		1 (2.9)		Parainfl. -2		1	1 (33.3)					
		S. pyogenes T-4	1		1 (2.9)		G群連鎖球菌		1	1 (33.3)					

表6. 病原微生物の確定又は推定 (2)

疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)	疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)	疾患	病原微生物	確定	推定	計 (%)
百日咳 44名	B. pertussis	15	15	30 (68.2)	麻疹 30名 水痘 15名	Measles	11	2	13 (43.3)	菌 感 染 28 症 名	B群連鎖球菌	1		1 (3.8)
	Cox. A群	1		1 (2.3)		計	11	2	13 (43.3)		群別不明連鎖球菌		4	4 (15.4)
	群別不明連鎖球菌		1	1 (2.3)		Varicella-Zoster	3		3 (20.0)		計	11	4	15 (57.7)
	計	16	16	32 (72.7)		計	3		3 (20.0)	腎 炎 2 名	未同定腸内ウイルス	1		1 (50.0)
口内炎 21名	H. simplex	12		12 (57.1)	手足 口26 病名	Cox. A-16	16		16 (61.5)	そ の 他 30 名	Rota	1		1 (50.0)
	Cox. A群	2		2 (9.5)		Cox. A-4		1	1 (3.8)		計	2		2 (100.0)
	Cox. A-4	1		1 (4.8)		計	16	1	17 (65.4)		Infl. A(H ₁ N ₁)	2		2 (6.7)
	Cox. B-5	1		1 (4.8)	発 疹 症 18 名	Cox. A-16	1		1 (5.6)	Adeno	1	2	3 (10.0)	
	計	16		16 (76.2)		Cox. B-5	1		1 (5.6)	Rota	1		1 (3.3)	
Rota	14	3	17 (36.2)	Measles		1	1	2 (11.1)	R. tsutsugamashi	1		1 (3.3)		
Adeno	2	3	5 (10.6)	Parainfl. - 3			1	1 (5.6)	S. pyogenes T-4	1		1 (3.3)		
下痢症 47名	S. typhimurium	2		2 (4.2)	Adeno		1	1 (5.6)	S. aureus	1		1 (3.3)		
	病原性大腸菌	1		1 (2.1)	群別不明連鎖球菌		2	2 (11.1)	H. simplex		1	1 (3.3)		
	Infl. A(H ₁ N ₁)	1		1 (2.1)	計	3	5	8 (44.4)	計	7	3	10 (33.3)		
	計	20	6	26 (55.3)	伝 紅 染 性 斑 3名	Adeno		1	1 (33.3)	1. 被検疾患数 38種類 2. 被検患者数 447名 3. 病原確定患者数 185名 病原確定診断率 41.4% 4. 病原推定患者数 71名 病原推定診断率 15.9% 5. 3 + 4 : 256名 57.3%				
	Rota	1		1 (33.3)	計		1	1 (33.3)						
	大腸3 炎名	計	1		1 (33.3)	猩 紅 熱 又 は 溶 連	S. pyogenes T-4	6		6 (21.4)				
		Mumps	14	1	15 (88.2)	" T-1	1		1 (3.8)					
流耳下 腺性炎 17名	計	14	1	15 (88.2)	" T-12	1		1 (3.8)						
					" 型不明	2		2 (7.7)						

表 7. 検出病原微生物の月別分布と対象疾患

検出病原微生物	年 月		1 9 7 9									1 9 8 0			合計(%)	対 象 疾 患 (患 者 数)
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
Viruses	Cox. A 群			4	4									8 (3.1)	ヘルパンギーナ(3), 扁桃炎(1), 頭炎(1) 上気道炎(1), 口内炎(2)	
	Cox. A - 4				1		1							2 (0.8)	手足口病(1), 口内炎(1)	
	Cox. A - 10			1	5			1						7 (2.7)	百日咳(1), ヘルパンギーナ(2), 扁桃炎(1) 咽頭炎(2), 上気道炎(1)	
	Cox. A - 16					1	1	9	1	3				2	17 (6.6)	手足口病(6), 発疹症(1)
	Cox. B - 1			2											2 (0.8)	扁桃炎(2)
	Cox. B - 5			2									1		3 (1.1)	発疹症(1), 扁桃炎(1), 口内炎(1)
	Infl.A(H ₁ N ₁)	7	8										1	8	24 (9.4)	インフルエンザ(2), 気管支炎(1), 咽頭炎(5), 下痢症(1), 扁桃炎(2), アンギーナ(1), その他(2)
	Infl.A(H ₃ N ₂)													15	15 (5.9)	インフルエンザ(1), 気管支炎(1), 咽頭炎(2), 上気道炎(1)
	Parainfl. - 1								1						1 (0.4)	咽頭炎(1)
	Parainfl. - 2	1	2	1											4 (1.6)	咽頭炎(2), アンギーナ(1), 肺炎(1)
	Parainfl. - 3	2					1		1						4 (1.6)	上気道炎(1), 扁桃炎(1), 肺炎(1), 発疹症(1)
	Adeno	2	4	2	1	3	1	1	5	1		2	2		24 (9.4)	上気道炎(4), 扁桃炎(4), 咽頭炎(2), 気管支炎(2), 下痢症(2), ヘルパンギーナ(1), 発疹症(1), 伝染性紅斑(1), その他(3)
	Measles	2	5	3	1	1		1				2			15 (5.9)	麻疹(3), 発疹症(2)
	V Z.				1					1		1			3 (1.1)	水痘又は帯状疱疹(3)
	Mumps					4	1	4	3	1	1	1			15 (5.9)	流行性耳下腺炎(5)
	Rota			1		3				8	1	3	4		20 (7.8)	下痢症(7), 大腸炎(1), 腎炎(1), その他(1)
	H. simplex	1				1	2		2			4	3	1	14 (5.5)	口内炎(2), 扁桃炎(1), その他(1)
未同定腸内ウイルス			2	1	1									4 (1.6)	上気道炎(2), 咽頭炎(1), 腎炎(1)	
小 計	15	19	14	14	18	7	16	22	6	11	14	26		182 (71.1)		
Bacteria	S. pyogenes T-1	1												1 (0.4)	猩紅熱(1)	
	” T-4	2	1						1	1		1	1	7 (2.7)	猩紅熱(6), その他	
	” T-12	2								1				3 (1.1)	猩紅熱(1), 上気道炎(1), 扁桃炎(1)	
	” B3264							1					1	2 (0.8)	インフルエンザ(1), 気管支炎(1)	
	” 型不明			1									1	2 (0.8)	猩紅熱(2)	
	B 群連鎖球菌						1							1 (0.4)	溶連菌感染症(1)	
	C ” ”			1									1	2 (0.8)	インフルエンザ(1), 上気道炎(1)	
	G ” ”									1				1 (0.4)	アンギーナ	
	群別不明連鎖球菌	3	2	1				4	2	2		1	2	17 (6.6)	猩紅熱又は溶連菌感染症(5), 扁桃炎(5), 咽頭炎(4), 上気道炎(1), 発疹症(2)	
	S. typhimurium						2								2 (0.8)	下痢症(2)
	病原性大腸菌	1													1 (0.4)	下痢症(1)
	B. pertussis	4	3	1		1	1	5	4	4	3	3	1	30 (11.7)	百日咳(30)	
	S. aureus	1	1										1		2 (0.8)	SSSS(1), 気管支炎(1)
	小 計	13	7	4		1	4	10	7	9	3	7	6		71 (27.7)	
M. pneumoniae									1	1				2 (0.8)	肺炎(1), 気管支炎(1)	
R. tsutsugamushi		1												1 (0.4)	ツツガ虫病(1)	
合 計 (%)	28 (10.9)	27 (10.5)	18 (7.0)	14 (5.5)	19 (7.4)	11 (4.3)	26 (10.2)	30 (11.7)	16 (6.3)	14 (5.5)	21 (8.2)	32 (12.5)	256 (100)			

菌の侵淫の加速化⁸⁾がこのような検出となってあらわれたものと考えられることから、今後、公衆衛生的にも食品衛生的にも十分監視していく必要がある。

IV 結 論

1979年度、由利、秋田、山本の各組合総合病院を拠点として、38疾患の感染症患者447名について病原微生物の定点観測をしたが、病原診断率は57.2%で、33種類以上の病原微生物が検出された。本報では、これらの患者及び病原微生物の発生動向などを中心に概略述べた。なお、詳報は1980年度に5ヶ年分を総括して行なうこととした。

文 献

- 1) 厚生省：サーベランス体制整備状況，全国地方衛生研究所会議資料，12—13（1980）
- 2) 森田盛大たち：秋田県における1976～1977年度の感

染症定点観測成績について，臨床とウイルス，6，214—232（1978）

- 3) 森田盛大たち：1978年度における感染症定点観測成績，秋田県衛生科学研究所報，23，91—98（1979）
- 4) 庄司キクたち：百日咳患者の血清学的検査成績と百日咳流行予測調査成績について，秋田県衛生科学研究所報，24，51—55（1980）
- 5) 森田盛大たち：1980年前期のインフルエンザ流行について，秋田県衛生科学研究所報，24，106—110（1980）（1980）
- 6) 佐藤宏康たち：昭和53～54年度に流行した手足口病からのウイルス分離成績について，秋田県衛生科学研究所報，24，76—79（1980）
- 7) 山脇徳美たち：秋田県における溶連菌の菌型とA群溶連菌の薬剤感受性試験成績について，秋田県衛生科学研究所報，24，60—63（1980）
- 8) 斉藤志保子たち：サルモネラ菌の生活環境汚染実態に関する調査研究（第5報），秋田県衛生科学研究所報，24，64—67（1980）